

24
25



 U-NEXT

 Premier League

REPORT

サッカー試合解説レポート

MATCH

U-NEXT プレミアリーグ マンチェスター・CVSイプスウィッチ

DATE

2024/8/24

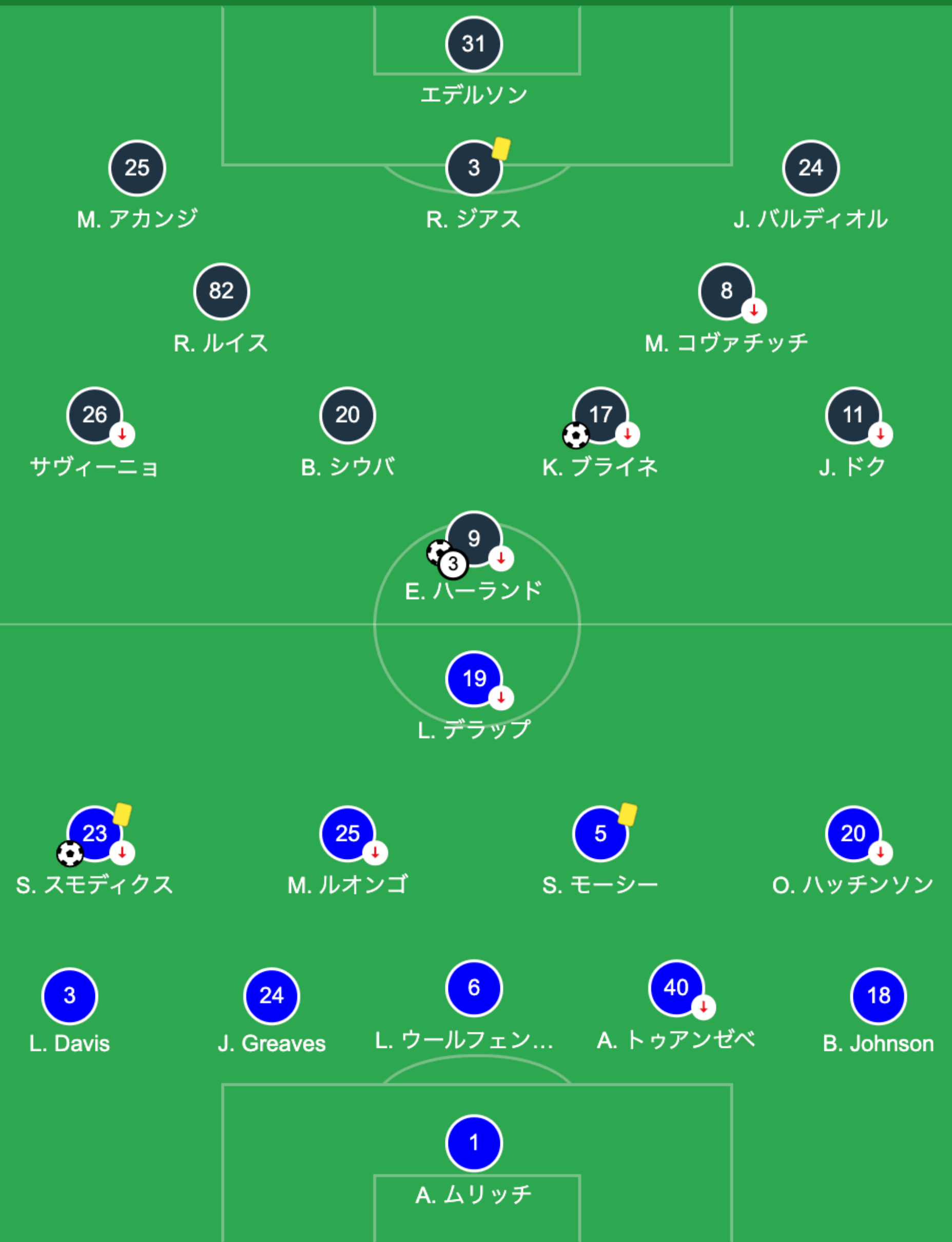
NAME

田中裕介



マンC

3-2-4-1



イプスウィッチ

5-4-1

プレミアリーグ・昨日

試合終了



マンC

4

-

1



イプスウィッチ

アーリング・ブラウト・ハーランド
12' (P), 16', 88'
ケヴィン・デ・ブライネ 14'



サミー・スモディクス 7'



サブメンバー



- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 5 ジョン・ストーンズ ↑ | ↑ ジョージ・エドマンドソン 4 |
| 10 ジャック・グリーリッシュ ↑ | ↑ コナー・チャップリン 10 |
| 19 イルカイ・ギュンドアン ↑ | ↑ マーカス・ハーネス 11 |
| 27 マテウス・ヌネス ↑ | ↑ ジャック・テイラー 14 |
| 87 ジェームズ・マカティアー ↑ | ↑ アリ・アル=ハマディ 16 |
| 2 カイル・ウォーカー | イェンス=リス・ミシェル・カユ... 12 |
| 6 ナタン・アケ | キャメロン・バージェス 15 |
| 18 シュテファン・オルテガ | コナー・タウンゼント 22 |
| 78 イッサ・カボレ | クリスチャン・ウォルトン 28 |



チーム別データ

14	シュート	1
5	枠内シュート	1
76%	ボール支配率	24%
755	パス	245
92%	パス成功率	81%
4	ファウル	15
2	イエローカード	3
0	レッドカード	0
3	オフサイド	1
10	コーナーキック	1

MATCH REPORT

SCORE 4-1 (1st 3-1 2nd 1-0)

TOP3 point

- ・ イプスウィッチの先制点が王者マン・Cに火をつける
- ・ わずか3分強の電光石火の3得点で試合を決定づける
- ・ エースハーランドショー開演

(マンチェスター・C)

・ 前半立ち上がりはボールを動かしながら相手陣地にじわりじわり侵入していく。イプスウィッチも開幕戦ほどのハイプレスは仕掛けて来なかったので自陣でのビルドアップはそこまで苦労していなかった印象。前半は左サイドで攻略。グヴァルディオール、ドク、デ・ブライネが連携しながら相手の右サイドを攻略して何度もチャンスを出した。しかし先制点は相手に一瞬のスキを突かれた。ショートカウンターからアカンジとニコ・ルイスの間にダイアゴナルに走られてラインブレイクされ失点。相手の狙った形で先制点を奪われた。だがすぐさま反撃。右サイドを単騎で仕掛けていたサビーニョの突破からPKを獲得。キッカーのハーランドが今シーズン初のPKを冷静に沈める。(昨シーズンは8本中7本成功。6本決めていた得意の左に流し込む)得点後すぐさま相手GKのミスを見逃さずサビーニョがボールを奪い、デ・ブライネが無人のゴールに流し込み逆転。またその直後にデ・ブライネのスルーパスに抜け出したハーランドが頭でGKを交わして流し込み電光石火の3得点で王者の貫禄を見せつけた。その後はボールを動かしながらリスクを取らず時間の経過を待ちながらゲームを進めた。後半には復帰したギュンドアンの出場やハーランドの強烈ミドルもあり開幕戦の盛り上がりに対応しいゲームを披露。終わってみれば4-1の圧勝。MVPはハーランド。能力・存在感・決定力。全てが圧巻の出来だった。

Challenges to the Next

- ・ 劣勢時のチームのビルドアップ打開案を素早く説明する
- ・ 得点時の素早く的確な説明をする
- ・ 特殊なニコルイスのもらい方・抜け出し方について言及

(イプスウィッチ)

システムは5-3-2。開幕戦ほど高い位置でハイプレスに行かない戦いを選択。開幕では70分以降苦しかったので、90分を見越しての戦術だったか。前半は右サイドの連携があまり良くなく、ジョンソンとツアンゼベ、ウールフェンデンの間のスペースが生まれてマークのズレが生まれてしまう。そこをうまく攻略されてピンチを招くシーンが多く見られた。しかしショートカウンターから長い距離を走ったスモディクスが2列目から抜け出して1-1を冷静に沈めて思いがけない先制点を奪う。ここでチームとして冷静になりたかったが、すぐさま左SBのデイヴィスのファールからPKを献上。すぐさま同点に追いつかれる。ここはもう一つ粘り強いドリブル対応が欲しかったところ。直後はこの日怪我から復帰したGKムリッチにミスが出て無人のゴールに流し込まれて逆転を許す。直後にバラバラにプレスにいったところ、ハーランドにスペースを与えてしまい痛恨の3点目を与えてしまった。チームとしてこの3分強は混乱しており、どこかで落ち着くタイミングが必要だった。後半は失点を重ねないように自陣ゴール前にブロックを敷き、我慢の時間を過ごす。次節以降を見据えてこれ以上失点を重ねたくないという意図を感じた。ビルドアップ時のGK、CB2枚とDMF2枚の5枚の立ち位置や動かし方をしっかりと見直したい所。特にDMFのボールキープ・プレス回避のクオリティは必須に感じた。左CBグリーブスの運ぶドリブルを使うのも一つの手段か。ハッチンソンは苦しい時間に自陣で時間を作るプレーを披露。大敗した試合の中でも唯一の光明だった。